

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2018年3月)

発表日: 2018年4月27日(金)

～1-3月期は減産も、予測指数は強く、4-6月期のリバウンドを示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
16	1月	▲1.1	▲3.7	0.5	▲5.2	0.3	0.2	1.0	4.2	1.2	▲10.6	0.5	▲1.2
	2月	▲1.8	▲1.0	▲1.6	▲1.4	▲0.5	▲1.1	▲1.9	0.4	▲2.2	▲1.5	▲1.6	▲0.1
	3月	1.2	0.4	1.3	▲0.4	1.6	1.1	1.9	3.3	0.8	▲4.5	1.3	1.5
	4月	0.4	▲3.2	0.3	▲3.1	▲1.4	▲0.5	▲1.4	1.3	3.4	▲3.1	2.5	1.3
	5月	▲1.2	▲0.6	▲0.7	▲0.9	0.2	0.3	0.7	2.3	▲1.2	▲1.3	▲3.1	1.7
	6月	1.5	▲1.6	1.1	▲1.6	▲0.4	▲0.5	▲1.1	2.3	0.8	▲2.8	0.6	▲0.5
	7月	0.0	▲4.2	0.3	▲3.8	▲1.7	▲2.4	0.6	3.6	0.0	▲4.4	1.6	▲1.4
	8月	1.3	4.5	0.2	1.8	0.0	▲2.1	▲2.5	▲2.7	1.3	2.6	▲0.7	2.7
	9月	0.3	1.5	0.6	0.8	▲0.5	▲2.7	0.3	▲0.7	0.8	3.8	0.4	1.3
	10月	0.3	▲1.2	1.1	▲1.8	▲1.3	▲3.6	▲1.1	0.4	0.3	1.6	1.9	▲0.5
	11月	1.0	4.4	1.0	5.0	▲1.8	▲5.5	▲3.7	▲7.2	2.0	7.6	0.8	6.0
	12月	0.7	3.1	0.0	2.4	0.7	▲5.3	0.8	▲6.4	▲0.7	4.9	▲1.5	0.6
17	1月	▲1.1	2.8	▲0.9	4.0	0.3	▲5.1	2.1	▲5.0	▲2.5	3.5	▲1.7	1.5
	2月	1.0	4.3	0.9	3.6	0.6	▲3.9	▲0.1	▲3.6	1.6	3.8	2.4	3.3
	3月	▲0.5	3.3	▲0.3	3.5	0.9	▲4.0	▲0.1	▲5.3	▲2.1	1.8	0.5	3.4
	4月	2.9	5.7	1.8	5.0	1.6	▲1.1	1.9	▲1.3	3.1	3.7	3.3	5.1
	5月	▲2.1	6.2	▲1.5	5.4	▲0.2	▲1.3	▲1.2	▲3.7	2.0	9.3	▲2.0	7.0
	6月	1.2	5.2	1.6	5.3	▲1.6	▲2.8	▲0.9	▲4.3	▲0.4	5.9	0.6	6.0
	7月	▲0.3	4.5	▲0.4	4.1	▲0.6	▲2.3	1.5	▲2.5	▲2.7	1.4	▲1.2	2.8
	8月	1.3	5.0	1.5	5.8	▲0.6	▲2.9	▲2.0	▲4.2	8.2	10.1	0.1	3.2
	9月	▲0.6	2.5	▲1.8	1.6	▲0.2	▲2.5	0.5	▲3.0	▲5.2	2.1	▲0.9	1.2
	10月	0.5	5.7	▲0.4	2.8	2.9	1.9	2.3	1.5	1.5	5.4	▲0.2	1.4
	11月	0.7	3.6	1.9	2.4	▲0.6	2.8	▲1.8	2.6	2.4	5.7	1.2	▲0.1
	12月	1.8	4.5	2.0	4.3	0.0	1.9	0.4	1.3	3.1	10.4	1.2	2.7
18	1月	▲4.5	2.9	▲4.5	2.2	▲0.5	1.5	1.8	2.3	▲3.4	9.5	▲5.2	1.1
	2月	2.0	1.6	1.6	0.7	0.5	1.6	0.3	2.6	▲1.4	3.1	5.2	1.3
	3月	1.2	2.2	▲0.2	0.0	3.5	4.1	3.2	6.1	2.9	8.2	▲0.9	▲0.7
	4月	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5月	▲1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)18年4、5月は、製造工業生産予測調査の数値

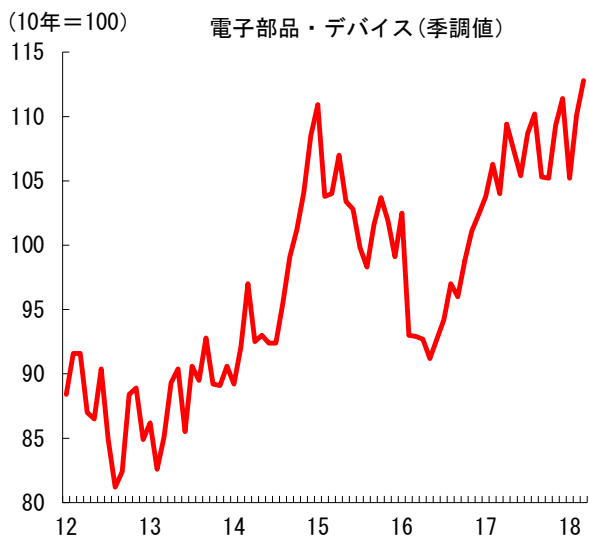
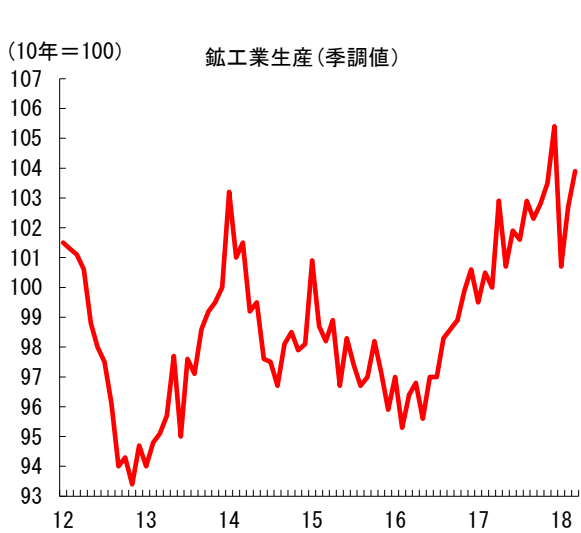
○1-3月期は減産も、4-6月期は増産の公算大

経済産業省より発表された2018年3月の鉱工業生産は前月比+1.2%と2ヶ月連続の上昇となり、事前の市場予想(前月比+0.5%)を上振れた。業種別では電子部品・デバイス(前月比+2.5%、前月比寄与度+0.2%Pt)や輸送機械(前月比+0.7%、前月比寄与度+0.1%Pt)などが押し上げている。もともと、2、3月の上昇によっても1月の大幅な落ち込み分(前月比▲4.5%)を取り戻すことはできておらず、1-3月期でみると前期比▲1.4%と、8四半期ぶりの減産となっている。年明け以降、世界的に景気モメンタムの鈍化がみられるが、日本もその例外ではなかった。

もともと、1-3月期の減産については、これまで速いペースで回復してきた反動の面があることや、大雪による経済活動の停滞、生鮮野菜価格の高騰による消費抑制といった下押しの影響も大きかったとみられる。これらの下押しは一時的なものであり、4-6月期には再び生産も持ち直すとみるのが妥当だろう。世界経済の回復に伴う輸出の拡大や高水準の企業収益を背景にした設備投資の増加といった、企業部門主導の景気回復の構図は崩れていない。

実際、同時に公表された製造工業予測指数は4月が前月比+3.1%、5月が▲1.6%と比較的強い数字になっている。4月に3ヶ月連続の上昇が見込まれていることに加え、5月の反動も控えめな印象だ。仮に4、

5月が予測指数通り、6月が横ばいと想定すると、4-6月期は前期比+3.5%の高い伸びになる。もちろん、予測指数には下振れバイアスがあることからこれを鵜呑みにはできないが、こうした傾向を考慮した経済産業省による試算値でも4月は前月比+1.4%と明確な上昇となっている。仮に4月が試算値通り前月比+1.4%、5月が反動で前月比▲1%程度落ち込むとすると、4-5月平均の値は1-3月期を2.4%上回ることになる。4-6月期は前期比+2%程度の増産は十分可能であり、1-3月期の落ち込み分を取り戻すだろう。均してみれば生産は上昇傾向という判断で良いと思われる。



出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。